

令和4年度 県立山形北高等学校 学校評価書(自己評価・学校関係者評価)

達成度	
A	達成
B	おおむね達成
C	やや不十分
D	不十分

教育目標	一つ「ほがらかに 温かく」
	二つ「まえむきに 誇らしく」
	三つ「しなやかに 逞しく」

<b>スクール・ミッション</b> 文化と芸術の風薫る環境の中で、校歌にある「倦(う)まず たゆまず ほがらかに」を胸に、普通科と音楽科の生徒が様々な関わりを通して、互いに感性と能力を磨き合いながら粘り強く着実に学び、自己実現に向けて果敢に挑戦し続け、未来をひらき地域の社会と文化を支える人材になるための力を育成します。
--

実践目標	取組み	評価の指標	対応	自己評価	
				目標の達成状況と分析	達成度
1 学力向上と学習指導の充実	(1) 授業第一主義の徹底を図る。	①年間授業時数を1単位35時間確保する。 ②校務支援ソフト(e-教務)を活用し出欠の確認や成績管理を適切に行う。	・授業日数を確保する。年間行事予定を確認し、短縮授業は必要最小限にとどめる。 ・考査や学期ごとに職員へ資料プリントを配布し、円滑な業務の遂行をはかる。	・ほぼ年間予定通りの授業時間数である。 ・考査や学期ごとに職員へ資料プリントを配布し、共通理解をはかりながら適切な運用に努めた。	B
	(2) 教科指導力の向上を図るため、研究授業・公開授業を推進する。	①各教科で研究授業を1回以上実施し、職員全体で合評会を行う。 ②観点別評価への理解を深め、シラバスや多様な授業評価に反映させる。 ③年間を通じ、総合的な探究の時間における協働的な学びを各学年で実施する。	・研究授業の実施を周知するとともに、職員相互の授業見学を推進する ・校内研修会の開催する。また、外部で開催される研修会への参加を促す。 ・各学年の年間計画に基づき、全職員の協力による指導を行う。	・「1人1台端末を活用した授業例」を共通テーマとした。9月までに2教科で実施した。 ・県の教育課程研究協議会などへの参加を通じて、教科内での共有をはかった。観点別評価について1学期の校内での事例を紹介した。 ・中間発表会、最終発表会まで年間計画通りに進んだ。全体への指示や調査で1人1台端末を活用することができた。	B
	(3) 確かな学力育成のため、探究的な学びを推進するとともに、学習時間の確保を図る。	①校内研修会を実施し、1人1台端末およびソフト、アプリの利用促進を図る。 ②1人1台端末、情報機器の適切な管理に努める。 ③家庭学習時間平日3時間以上、休日4時間以上を目指す。	・他校の事例紹介や利用に関する研修会を実施する。 ・同意書の回収や保険への加入を適切に行う。また、記録簿を整備し故障や破損に対応する。 ・学習時間調査を実施し、家庭学習の定着を図る。	・県が開催する講座や個別の講座への参加を促した。また、12月に職員研修会を実施した。 ・初期指導に時間を要したが、5月から生徒の1人1台端末の本格的な利用を開始した。不具合には随時対応した。 ・6月に各学年の学習時間調査を実施した。平日の学習時間は2時間を少し超える程度である。	B
	(4) 読書活動を推進する。	①先見の時間の読書カード提出率を100%にする。 ②年間貸出冊数2000冊以上を目指す。 ③年間一人10冊以上の読書を奨励する。	・生徒への生活指導・小論文指導を徹底する。各課・学年との連携を図る。 ・図書館活動・図書委員活動の充実を図る。特設コーナーの更新など魅力的な図書館づくりを行う。また、探究的な学習での活用に対応できる環境を整える。 ・読書の意義について指導する。読書関連行事の更なる工夫を行う。	・先見の時間の取り組み状況は改善された。第1タームの読書カードの提出率は85.6%であった。 ・2学期までの貸出冊数は840冊(前年同時期1199冊)。授業における調べ学習、探究の時間での文献調査、小論文学習などの場面で図書館の利用促進をはかった。 ・図書館オリエンテーションを行い、読書の意義や貸出について指導した。	B
2 キャリア教育の推進	(1) 3年間を見通したキャリア教育の一層の充実を図る。	①校外の体験活動や授業・講義、校内での説明会や出張講座等の参加率を80%以上を目指す。 ②校内外のキャリア教育プログラムに積極的に参加し、その度にルーブリックを用いた振り返りを行う。 ③教員向け進路指導研修会を実施し、参加率70%以上を目指す。	・1年間を通して校内外キャリア教育プログラムに一度は参加するよう働きかける。 ・中学校から続く記録(キャリアパスポート)に継続的に残す。 ・最新の入試状況を捉えて、情報共有を進めていく。	①について ・夏期休業中のオープンキャンパスへの参加(ほぼ全員) ・夢ナビ(フロムページ)ほぼ全員 ・各業者による進学説明会 ・進路講演会の振り返りや、学期ごとの振り返りの時間を設けて、継続的に記録を残した。 ・ルーブリックに関しては未実施 ・教員向けの志望理由書や小論文指導の研修会を計画していたが、未実施	B
	(2) 進路第一志望達成に向け、全体と個別の両面からの指導を行う。	①生徒向け進路講演会について70%以上のプラス評価を得る。またルーブリックを用いた振り返りをする。 ②保護者向け進路講演会の参加率を50%以上にし、またアンケート評価において70%以上のプラス評価を得る。	・各学年と連携を図りながら、外部の研究会で情報収集に努める。 ・該当学年が、3年間の進路指導の中でどのような情報が必要なのかを明確にして、保護者に伝える。	・山形大学入試研究会(会場:山形西)東北大学入試研究会(会場:山形東)にて情報交換 ・生徒向け進路講演会は講師選定から充実して行うことができた。 ・各学年とも保護者進路講演会の出席率は概ね50%を越えた。 ・3年の総合型・推薦型選抜の説明会は7割近くの出席率であった。	B

学校関係者評価	
意見・要望・評価等	
<p>○探究活動はとてよい取り組みである。 ○音楽科の演奏会(公開レッスン、南イオン、霞城セントラル、遊学館など)はとてよい機会だった。 ○市立図書館では北高生も参加してよかった。 ○文理を分けない、ダイバーシティ、社会共創の視点からも高校生の可能性を伸ばしてほしい。 ○探究活動について、OGや企業も介入して生徒たちの活動を披露できればよいのではないか。 ○音楽科のPRとして、中学校に向けてチラシを配付し演奏会について知らせたいかがか。また、地域の中学生に高校生が楽器等を教えに行くことをしてもよいのではないか。</p>	
<p>○大学で何を勉強するべきなのか弱いと思う。Zoom等を活用して、OGや大学生の話を聞いたり、シラバスを紹介する等してはどうか。</p>	

実践目標	取組み	評価の指標	対応	自己評価			学校関係者評価
				目標の達成状況と分析	達成度	次年度へ向けた取組	意見・要望・評価等
3 生徒指導の推進及び特別活動の充実	(1) 基本的な生活習慣を身につけ、自己成長を図る。	①学校生活時間を守る。 ②交通事故発生件数を0にする。 ③登下校・校外活動において、他校生の模範となる行動（交通安全、挨拶・礼儀等）を目指す。	・フルグラムの有効利用を図るとともに、昇降口での遅刻指導や、放送による下校の呼びかけ等により、時間管理意識を高める。 ・生徒交通安全委員会の活動や集会等を利用した注意喚起等により、交通ルールやマナーについての指導を強化する。 ・生徒会執行部を中心に生徒総会、学年集会で話題に取り上げて生徒が主体的に行動するようにする。	・フルグラムは学年ごと有効に活用されている。遅刻者は固定化されてきている。自転車による交通事故は7件だった。 ・事故内容は被害事故6件、加害事故1件であった。近隣の住民からは交通ルールに関する苦情が多数あった。 ・登下校中の服装やマナーについて苦情があり、良い状態とは言えない。	C	○引き続き有効活用を図る。遅刻者は固定化されてきているので生徒それぞれの事情を理解して指導にあたる。 ○毎週水曜日のSHRで交通安全委員が交通マナーの向上の呼びかけを行う。生活委員会では、公共の交通機関のマナー乗車や乱れた服装をしないように呼び掛けを徹底する。	○指導の先生方に感服している。日頃の生徒指導も徹底していると思う。
	(2) 豊かな人間性を育み、いじめ防止に取り組む。	①いじめの根絶を図る。 ②SNSに関わるトラブルを抑制する。	・アンケート調査を年3回実施するとともに、面談等や普段の生活から生徒の状態を把握して早期発見、防止に務める。 ・生活委員会の活動やチランの作成、学年集会などでトラブル回避を喚起する。	・計画に沿って実施している。いじめの認知としては10件あったが、速やかな対応ができた。 ・SNSに関する誹謗中傷や嫌なことを言われているが3件あった。速やかな対応ができた。	C	○アンケート調査のみに係わらず普段の生徒の生活状態を把握していじめの早期発見、防止に心がける。	
	(3) 生徒会活動や部活動の活性化の推進や、地域貢献活動等を推奨して、自己実現を図るとともに、自己肯定感や自己有用感及び自己効力感を醸成する。	①生徒会行事に係る満足度を高める。 ②インターハイ並びに全国高総文祭への複数参加を目指す。 ③ボランティアエンジェルへの登録者増加を図る。(200名以上)	・生徒の主体的、協働的な活動を支援して北高三大行事を成功させる。 ・部活動運営方針に沿った活動を継続するとともに、コロナ対策についての指導も強化する。 ・地区の民生児童委員や市社会福祉協議会等関係団体との連携を強化する。生徒への情報提供機会の充実を図る。	・コロナウイルス感染症で活動内容等を工夫し波乗り大会、合唱祭、北高祭は成功裏に終了した。 ・適切なコロナウイルス感染症対策を講じて活動し、なぎなた部、囲碁が全国大会に出場した。 ・登録人数は78名であり、山形市学習支援ボランティアなど78名が活動した。また、その他のボランティア活動に積極的に参加した。	B	○引き続き、コロナウイルス感染症対策における「新生活様式」を基にそれぞれの場面において適切な行動をする。	
4 健康の保持増進と快適な学習環境の整備	(1) 心身の健康保持に努め、健康保持増進を図る。	①出席率95%以上を目指す。 ②不登校生徒対策として、一次予防を充実させる。 ③感染症の集団発生ゼロを目指す。	・基本的な生活習慣の改善のための生徒保健委員会による啓蒙活動、生徒向け講演会等を行う。 ・心と体のエクササイズ、Hyper-QU、職員研修会、生徒向け講演会、カウンセリングを実施する。 ・感染症に関わる情報を収集し対策を講ずる。換気を行い密を避ける指導や、健康観察・消毒を行う。	・出席率97%を達成。保健委員会の研究発表・昼の放送・保健だより作成やSCによる講演会を行った。 ・心と体のエクササイズ、Hyper-QU、職員研修会、いのちの学習、SC事業などを実施。 ・換気、消毒、ぶじっによる校外での健康観察などを行った。施設の消毒には校務補助員も活用している。	B	○出席率の目標は達成しているが、風邪症状やワクチン副反応による出席停止に加え、それ以外の欠席も目立ってきている。良好な生活習慣を維持するための指導や、欠席した場合の学習サポートなどを、校内連携等で行っていく必要があるだろう。	○新型コロナの5類移行が検討されている。感染拡大防止対策も緩和等対応してもらいたい。
	(2) 環境の美化に努め、快適な学習環境を維持する。	①登校日の清掃を完全実施する。 ②教室や水道の環境基準を遵守する。	・登校日（模試・講習・考査含む）の通常清掃や大掃除を実施し、年1回のワックスがけを行う。 ・定期点検や、温度・湿度・CO2濃度・照度、水質等の測定と改善を行う。	・大掃除、ワックス塗布を行った。 ・定期点検により受水槽の不具合が発生。水質に問題ある箇所適切に対応した。CO2濃度等は冬期に検査する。 ・水道への塩素投入により、特別教室棟の残留塩素不足に対処している。CO2濃度等は2月に検査する予定。	B	○老朽化するなか、修繕や清掃により、安全で清潔な校舎になるようにしたい。	
5 家庭、地域社会とのつながりの推進と安全安心な学習環境の整備	(1) 危機管理体制を整備し、災害や事故の防止に努める。	①危機管理体制を不断に見直し、災害に応じた適切な体制を確立する。 ②「さくら連絡網」を活用し、情報を適切かつ迅速に発信する。 ③毎月定期点検を行い、校舎の維持管理を行う。	・危機管理マニュアルの周知徹底を図る。火災、地震の際の避難経路を見直す。 ・職員、保護者、生徒への登録の徹底を図り、迅速な情報提供と安否確認を行う。 ・関係各所と連携を密にし、維持管理を徹底する。	・コロナ感染防止対策を強化しながら、保護者、生徒、職員の健康の安全確保に連携・協力している。緊急警報（Jアラート）発令時の対応について生徒への周知徹底を図りながら、避難訓練実施を計画している。 ・「さくら連絡網」による健康管理、安全対策、学習支援など活用範囲を広げながら、電話や対面での話し合いを通じ、生徒・保護者が安心できる環境づくりを職員が協力して行っている。 ・職員による迅速な修理修繕を行うとともに、年度後半は業者による大規模改修工事を実施し、老朽化している校舎の維持管理に全職員が協力して努力している。	B	○安全対策の一環としての施設管理をさらに丁寧を実施する。 ○「さくら連絡網」の運用に関して、関係分掌との連携を図りながら、教員間での意思統一を図る。 ○生徒、教職員の健康維持のために、校舎の老朽化に伴う不具合を解決する方法を工夫する。特に安全な飲料水の確保に向けて、関係機関と連携し、実現に向けて努力する。	○学校行事や部活動等「緑陵」で見ている。 ○PTAの活動があまりなかった、もっと活動の場を作ってほしい。
	(2) 開かれた学校づくりのため、保護者や地域との連携を図る。	①HPの月2回以上の更新、学校広報紙「緑陵」を月1回配布を通して、地域社会等への情報発信を行う。 ②PTA総会出席率を70%（承認率90%）以上にする。	・担当者との情報共有を図り、地域住民、保護者、生徒への情報発信を積極的に行う。 ・PTA総会や保護者会研修会の集会実施、オンライン実施などを工夫する。	・教職員による生徒の活動に関する情報提供や教頭先生の協力で、HPの更新及び「緑陵」の毎月の発行を確実に実施した。 ・4月の各学年PTA総会は、3年ぶりに対面形式で実施し、保護者と教員の意見交換を活発に行った。全体PTA総会（書面会議）は承認率100%を達成し、保護者の十分な理解のもと学校運営を進める基礎づくりとなった。	A	○学年行事、進路行事、部活動などの情報の収集をさらに強化する。 ○PTA行事や保護者研修会などの行事に加え、さくら連絡網の連絡機能を活用し、より効率的な連携を図る。 ○保護者への情報発信や保護者からの情報収集の効率化に向けて、さくら連絡網等のICTツールの活用方法を職員全体で工夫する。	